広見短歌会

おだやかで　静かな朝を　茶の花は　露ふくみ咲き　街動きそむ　越智　坂一

けだものの　肌に陽当る　ごとくして　この枯山の　黄なるしづけさ　須藤ヒサヱ

真向ひの　山の向こうは　亡き父の　故郷土佐の　稜線見ゆる　蛭谷　寿子

我等金婚　子等銀婚の　佳き年に　孫花嫁と　なりてとつげり　松下　啓脩

材木を　積みて過ぎゆく　車より　木の香の匂ひ　夕べただよふ　渡辺八千代

小遣いを　出し合ひ孫等の　買いくれし　ヒーターあたたか　クリスマスイブ　松﨑　静香

膝痛で　ひと日籠れば　駈けるごと　くらした日々の　幸せ思ふ　高田　治子

刈り急ぐ　草の中より　茎枯れし　高砂百合の　羽根実こぼる　山本まつゑ

ささやかな　望み託して　新年に　新しき町の　放送をきく　渡辺キヨ子

つのりくる　不安を頒つ　すべなくて　濡れし舗道の　石ふみ歩む　武田　幸子

今時の　ねずみも時代に　負けずして　仕かけにそむき　遊びたわむる　伊手リツヱ

一人籠る　寒きひと日に　風運ぶ　聞える筈の　なき母の声　佐々木登美子

ひょし川柳会

子や孫の　輪の真ん中に　居る至福　栗木　一郎

福笹へ　いっぱい欲を　ぶら下げる　畠山　千歳

先に口　出して失敗　早合点　宮本ヨリヲ

祝福の　笑顔に笑顔　返す幸　清家　厚美

大寒じゃ　春じゃと桜　迷い咲き　林　久義

寒行の　僧にむち打つ　滝の水　西田　正念

孫の駒　先手先手で　爺を攻め　熊本　中心

目の先に　終着駅が　見えはじめ　道下　盛多

針の先　まだ見えるから　大丈夫　柳本　勝美

既成服　すっきり着たい　ダイエット　芝　智恵子

挨拶は　寒いですなと　通りすぎ　上田タケミ

毎朝の　スタート母の　かっぽう着　宮脇マサヱ

大物を　上げてにっこり　福笑い　川添　忠昭

先走る　妻でのんびり　屋の亭主　高橋　麗子

二歩三歩　下がれば先が　見えてくる　小越　安隆

年重ね　だんだん女　強くなる　水野　貞子

大きくなったら　広見中学校